

平成29年度 横浜市世界を目指す若者応援事業

(個人留学による帰国報告)

●氏名

MYさん

●留学先

国/都市：米国/フロリダ州

外国の高校：Cocoa High School

●留学期間

平成29年7月29日～平成30年5月27日

●留学先での活動、留学で学んだこと

私は10か月の留学生活を通して人とのつながりの大切さ、そして積極的に行動することの大切さを強く感じました。優しさ溢れるホストファミリーと過ごした日々はとても楽しく印象に残る毎日でした。留学だからこそ知り、学べたことも多く、このかけがえのない経験をさせてくれた両親を始め、友人や先生、この奨学金を通して私を支えて下さった方々など多くの人に感謝しています。学校生活も友人や先生方のサポートもあり、乗り越えることができました。この10か月は私の今までの人生で一番成長できた10か月です。ここで学んだ多くのことを忘れずに、これからも自分の道を精一杯、歩んでいきます。

●肌で感じた人とのつながり

部屋のものが少しずつスーツケースに詰められ、今まで無かった空間が顔を出し始めました。改めて帰国日が近づいているのだと実感します。だんだんと今年の夏に来たばかりの空っぽだった部屋に戻り、少し切なくなりました。

めまぐるしく過ぎていった約一年の留学生活を経て、私は多くのことを学びました。17年の人生で最も成長出来たと自信を持って言うことが出来ます。初めて訪れる土地に初めて会う人々、以前からの知り合いもおらず、楽しみではあったものの、来たばかりの私は不安に押しつぶされそうだったことを今でも覚えています。そんな私を気遣い、支えてくれたのはホストファミリーでした。私のホストファミリーはお母さんにお父さん、お兄さんに妹、弟の5人家族です。そして犬が4匹に猫が3匹、馬やヤギ、鶏など多くの動物を飼っているととても賑やかな家庭です。お父さんは建築の仕事に加え牧場を経営しており、沢山の牛と触れ合わせてくれました。全てが新しく無知だった私に、現地でのルールや生活の仕方を教えてくれたのもホストファミリーです。到着直後はまだ夏休みだったので、色々な場所にも連れて行ってくれました。私が滞在していたココアという町は海が近く横

浜を思い出させます。地元の人で賑わう海辺の公園やピクニック、キャンプなど家族と多くの時間を過ごし夏休みを通して良い関係を築くことが出来ました。

夏休みが終わると学校、そして秋のシーズンスポーツの一つであるボーリングのチームに入りました。当たり前ですが全てが英語で行われる中、私は付いていくのもやっとでした。日中は学校で課題やテスト、放課後は宿題にボーリングの練習という1日が続きとても大変でしたが友人や先生が親身になってサポートしてくれたお陰で乗り越えることが出来ました。1年間、気を引き締め頑張ったこともあり、良い成績を維持することが出来、とても嬉しかったです。ボーリングではチームメイト達が1ゲームで120点以上取る中、初心者の私はその半分を取ることも出来ませんでした。コーチやチームメイトのアドバイスによりシーズンが終わるころには100点以上取ることが出来ました。私の高校の女子ボーリングチームはその年、州の大会に進むこともでき、あの時の感動は今でも忘れられません。

ボーリングのシーズンが終わると同時にコーラスの練習が始まりました。コーラスの活動内容は季節ごとにコンサート開催に加え、ミュージックパフォーマンスアセスメントという州の大きなコーラスの発表会の州選抜への練習等です。皆で団結し沢山の練習を行った結果、この年私たちコーラスは40年ぶりとなる州の発表会への出場切符を手に入れました。もともと歌うことが好きでコーラスの皆も大好きだった私は、絶対に後れを取らない様にいつも必死に積極的に練習に参加していました。そのお陰で公民館でのパフォーマンスメンバーに選ばれたり、その年のスピリット賞を取ることが出来ました。コーラスを通して、大人数の活動での苦労や団結することの大切さを学ぶことが出来ました。

家庭では日常から自分に出来ることを探し、毎日のお手伝いに加え動物への餌やりや庭の掃除など行いました。ホストマザーはとても料理が上手く、特に感謝祭やクリスマスの料理は絶品でした。感謝祭やクリスマスはアメリカの人々にとって家族での大切な時間であるということを知り、国が違えばそれぞれの行事の捉え方も違うということがとても興味深かったです。大体の日本人にとってはクリスマスなどは楽しいイベントという認識ですがアメリカの人にとってはそれらは宗教が大きくかわる家族団らんの大切な日であるということを知り、その国の行事を知り経験することはその国の人々の考え方や歴史的背景を知る方法のひとつだということも分かりました。

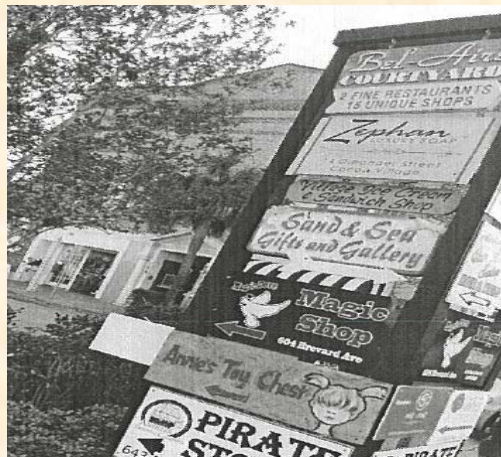
家での行事に加え学校での行事にも全力を注ぎました。ホームカミングやプロムなど憧れていた行事に参加したことに加えフィールドディというスポーツをみんなでする日にはボランティアで来ていた警察の方と共にかき氷を作り配布するお手伝いをしました。またあるアニメや漫画、ゲームが好きな生徒が集まるクラブ主催の日本文化フェスティバルではお箸の使い方や折り紙の折り方、日本語での名前の書き方などの企画運営の手伝いに加え、朝のニュースでの宣伝を行いました。当日は浴衣を着てできるだけ多くの人に日本の良さを知ってもらえるように頑張りました。多くの人に来て下さり笑顔で楽しんでくれて終わった後の達成感は今でも鮮明に覚えています。留学生としてイベントの運営に貢献できたことがとても嬉しかったです。

また英語の授業を通して横浜市を紹介する詩を書き、大勢の前で発表をしました。日本から持参した横浜市のハンドブックやウェブサイトの情報をもとに分かりやすく聞きやすい詩の作成を心掛けました。当日は日本の高校の制服を着て発表をしました。発表を通

して、横浜は日本とアメリカが最初に交流し歴史的にも大きな影響を与えた都市であり、今でも横浜中華街や外人墓地、横浜港など数多くの観光地があるということを伝えました。私の発表が終わった後には、横浜という町についてもっと知りたいと沢山の質問を受けたのでそれに答え、横浜のパンフレットを見せながら更に深く説明をしました。多くの人が是非横浜に訪れたいと言ってきて、とても嬉しかったです。

この留学経験を通して私は多くを知り、学ぶことが出来ました。その中で私が最も大切だと思ったことがあります。それは人とのつながりと積極性です。この一年間、私は大小問わず多くのコミュニティに所属していました。ある日ボランティアに参加した時のことです。その教会はよく朝の礼拝に行く教会でそこで有志によって行われている2週間ごとに食料の無料配布を行っていると聞き私も参加することにしました。以前からボランティアには興味があったこともあり緊張していましたがとても楽しんで働くことが出来ました。内容は教会への寄付やボランティアの方々によって集まった缶詰やシリアル、パスタなどを紙袋に詰め訪ねてきた人に配布するというものでした。やって来た方は氏名にIDの確認をして家族の人数によって1袋、または2袋受け取ります。対象になる人に主な制限はなく基本的には誰でも受け取ることが出来ます。私はなぜこの活動を始めたのか代表の方に話を聞きました。彼女は以前読んだ本の影響を受け自分にできることは無いかと考えた結果この活動にたどり着いたと言っていました。その本の内容は自然災害により飢えに苦しむ人々を主人公が救うという内容でした。食料配給を行う教会はその周辺にもいくつかあり、彼女は自ら偵察に行きより良い環境を整えようと頑張ったそうです。教会を訪ねてくる人は様々でしたが皆去る時には友人のように仲良くなり笑顔で去って行きました。

一つの教会というこのコミュニティは多くの人を救い繋ぐ大切な役割を果たしていることに気付きました。またこの教会では学生の集まりや行事ごとのイベントも行っておりそれぞれのイベントでの出会いが新たな出会いにつながりまた違うコミュニティが生まれます。こうして人々の輪はどんどんと広がりより住みやすい環境を作り出します。信仰という一つのアイテムが人々をつなぐ架け橋となっているのです。教会をはじめ、学校、クラス、部活、ホストファミリーなど多くのコミュニティに私は所属していましたがそれぞれに積極的に参加することでつながりの輪は広がって行きました。この充実した1年を忘れずに、お互いを支えあい気にかけて協力し過ごすこと、私は肌で感じられるほど密接で固い人とのつながりをこれからも大切に過ごして行きたいです。



素敵なお店と多くの人で賑わう
ココアヴィレッジ